

# 旧広島陸軍被服支廠の活用を考えるワークショップ

【Newsletter Vol.2（2022年4月発行）】

第2回 ワークショップ

日時：2022年3月13日（日）13:00～15:30

場所：広島県自治会館会議室・Zoomオンライン

参加者：38名

## ワークショップの目的

本ワークショップでは、様々な世代の方々にご参加いただき、被服支廠の活用に向けて、何を大事に考えていきたい？、どんな活用のアイデアがある？といったご意見を広く集めていきます。

その結果は、旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会に提示しながら、「活用の方向性」の取りまとめに活かしていきます。

## ワークショップのスケジュール

### 第1回

- ・検討スタート！まずは話してみよう
- ・被服支廠のことを知ろう
- ・被服支廠について、参加者の今の考えを集めてみよう

### 第2～3回

- ・各種団体など、いろいろな人の話を聞いてみましょう
- ・活用にあたって大事にすべき視点（大きな方針）などを話し合ってみよう

### 第3～4回

- ・活用方策のアイデアを、いろいろな視点から出してみよう

### 第5回

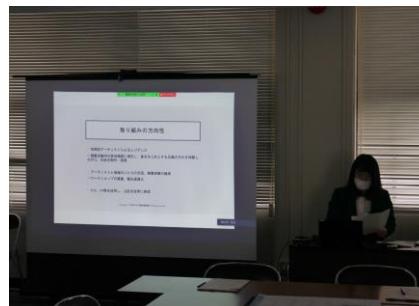
- ・ワークショップの結果を振り返り、広く発信していきましょう

今回の  
ワークショップ

## 今回はこんな内容でした！

### ①キーパーソンヒアリングとして3名の方にご講演いただきました！

被服支廠活用の考え方について、様々な立場の方のご意見をお伺いするため、NPO法人ひろしまインターネット美術館 積山さん、旧被服支廠の保全を願う懇談会 多賀さん、株式会社JizoHat ポールさんにご講演いただきました。



▲積山さん



▲多賀さん



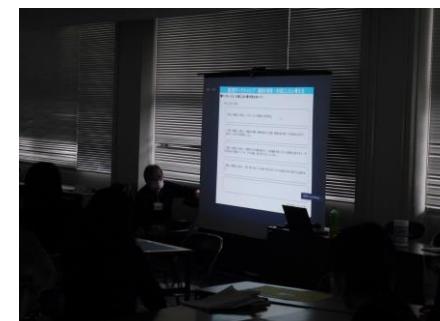
▲ポールさん

### ②参加者の皆様で、被服支廠を活用するうえで「大切にしたい考え方」を話し合いました！

ワークショップは現地・オンラインを併用し、計6つのグループに分かれて実施しました。第1回ワークショップから、場所の持つポテンシャルや皆さんの大切にしたい考え方を抽出した連想マップを使用し、被服支廠活用にあたって、特に大切にしていきたい考え方を話し合いました。



▲ワークショップの様子(現地)

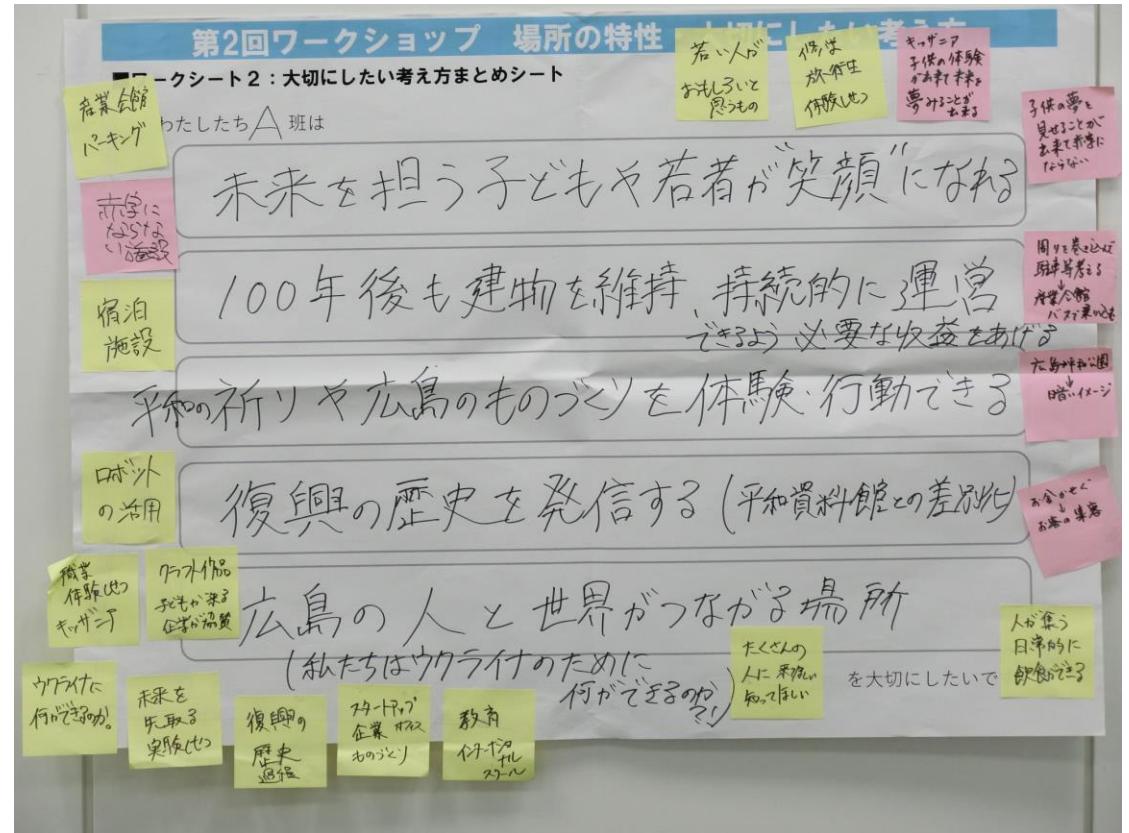
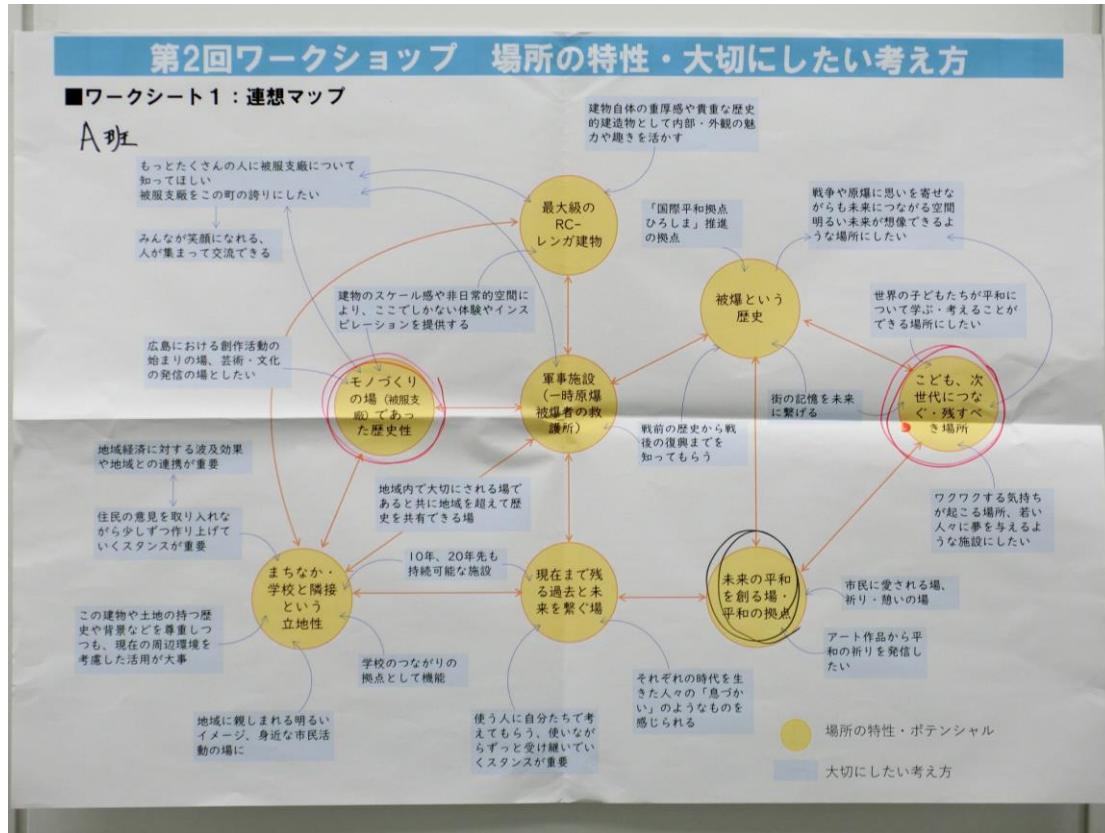


▲成果発表の様子(オンライン)

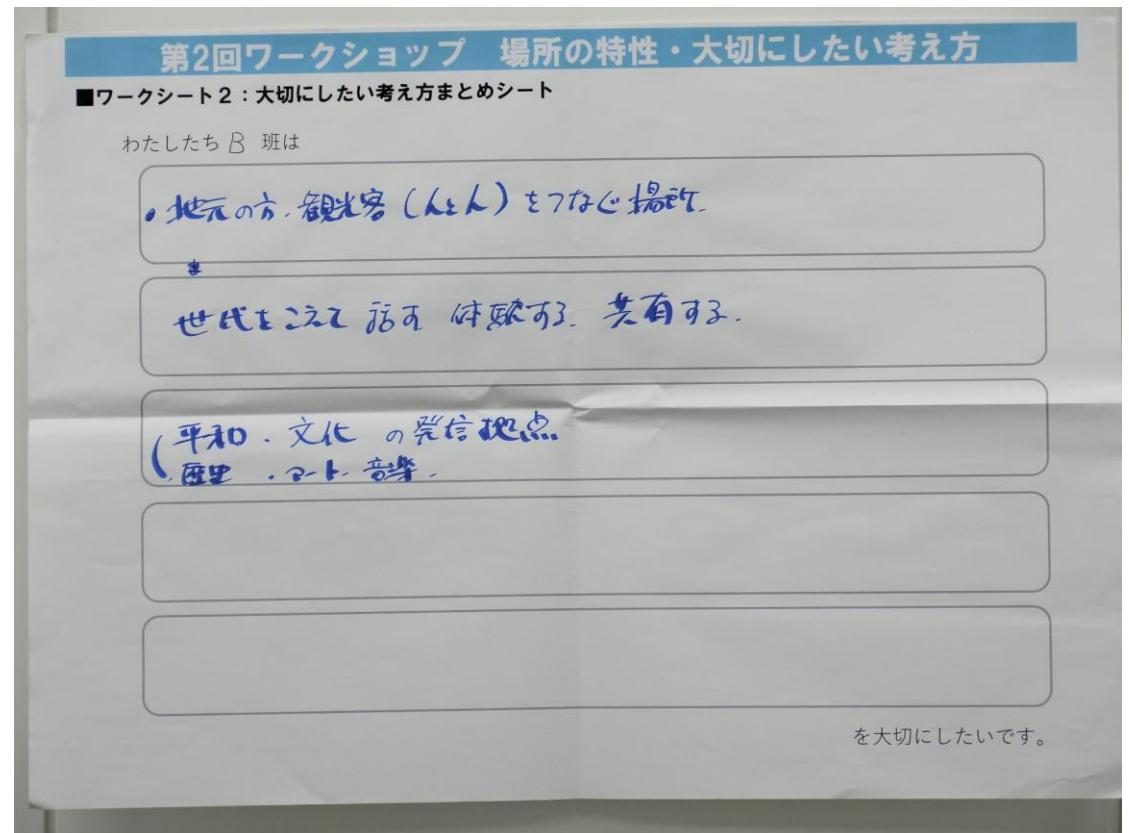
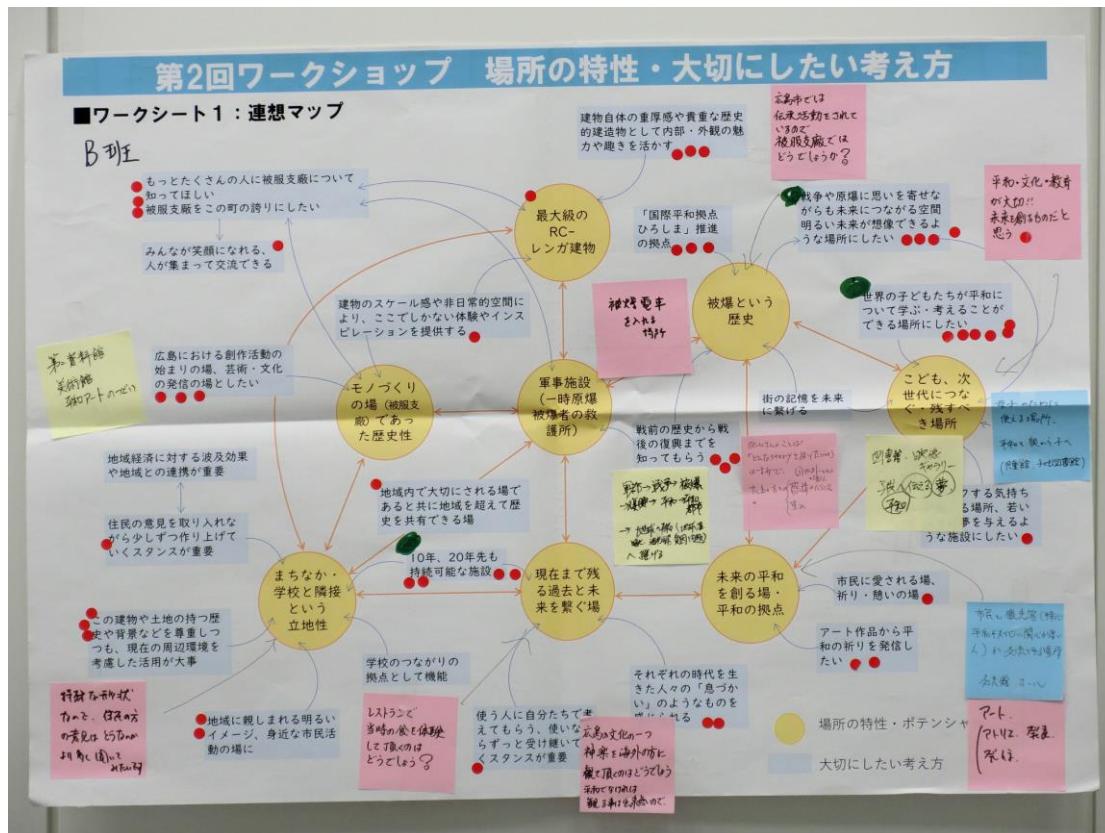


▲講評

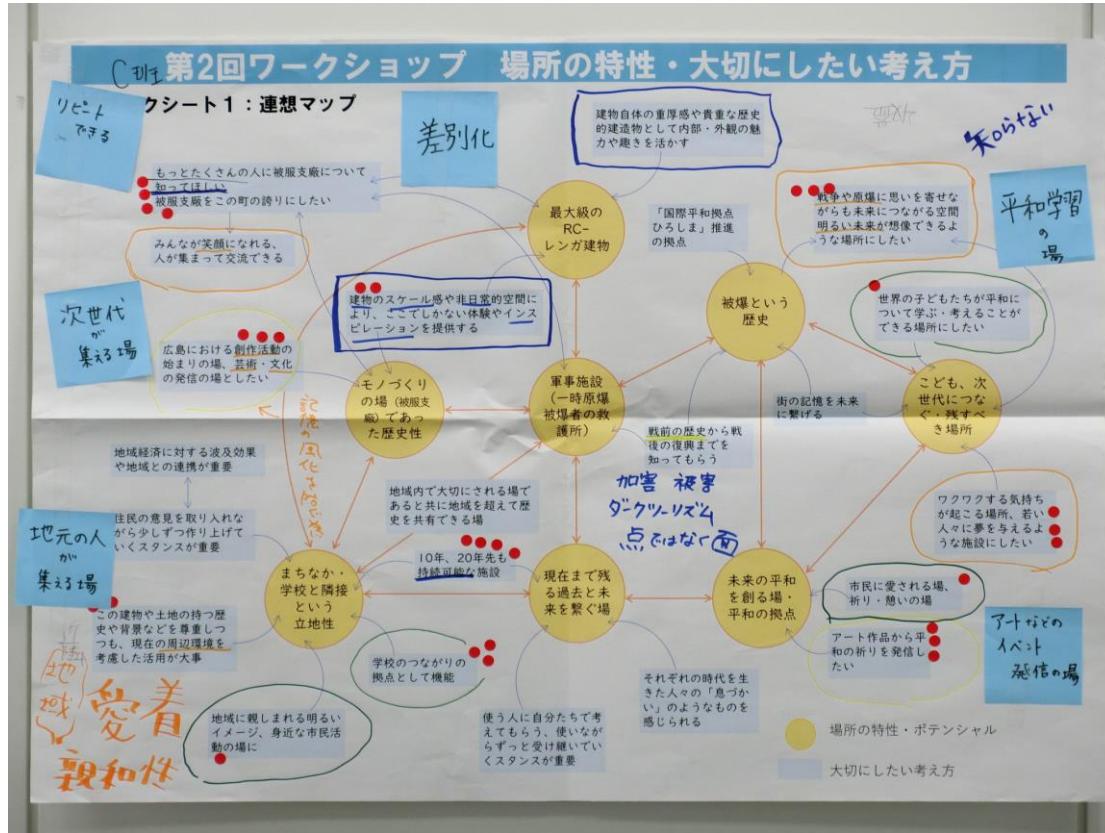
A班



B班



C班



第2回ワークショップ 場所の特性・大切にしたい考え方

■ワークシート2: 大切にしたい考え方まとめシート

わたしたちC班は

国内外に向けて建物と建物が持つストーリーを知ってもらおう。

次世代に伝える平和学習の場

建物ごとのターゲットも変え持続可能(収益性)な活用

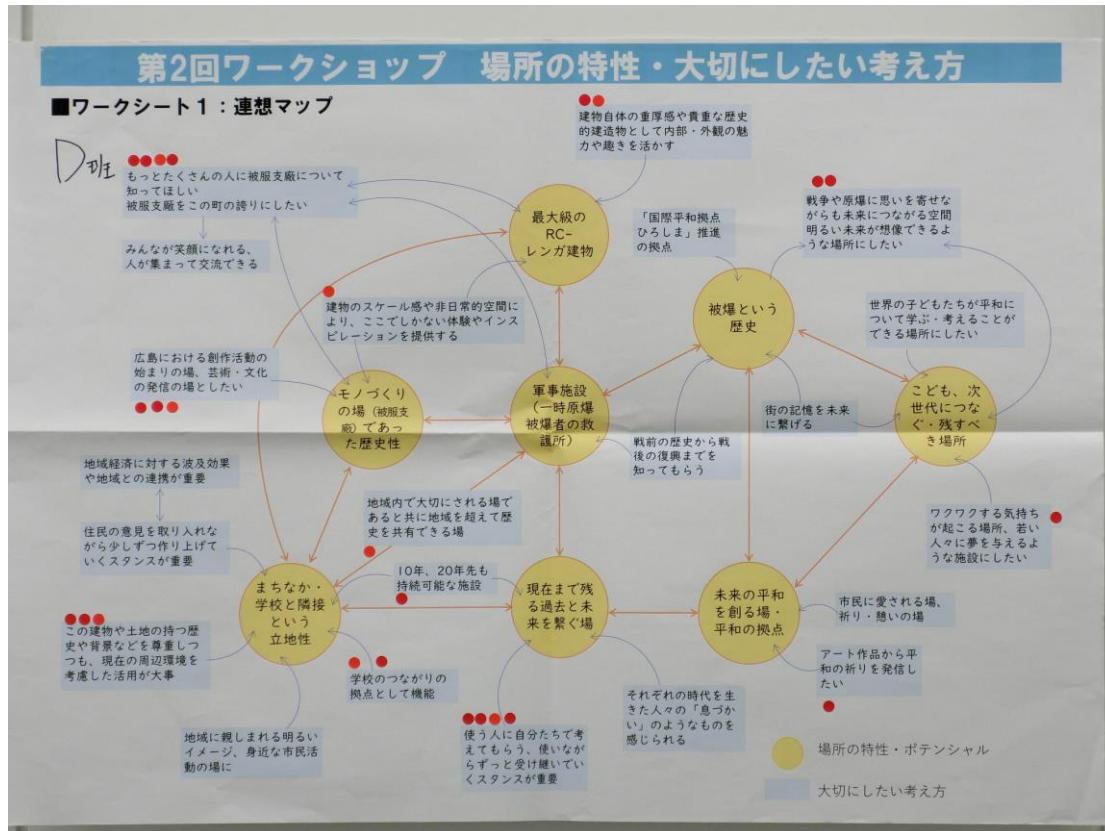
点ではなく面で考える。

近隣地域の方に愛着を持って関わってもらおう。

差別化等から収益を持続可能のために得る。

を大切にしたいです。

D班



第2回ワークショップ 場所の特性・大切にしたい考え方

■ワークシート2: 大切にしたい考え方まとめシート

わたしたちD班は

使い方を決めず、使い手に考えてもらう!!

人が来なくなるような場所にする!!

広島における文化を発信する場所にする。

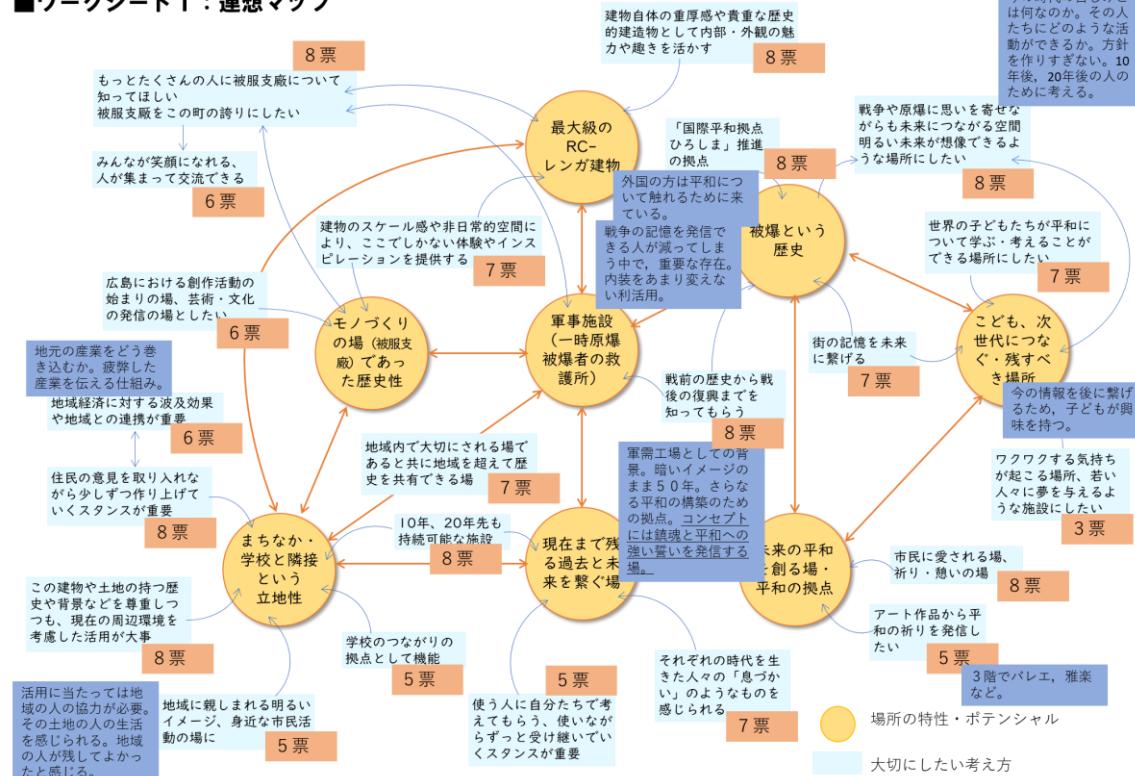
被服支廠にも、と矢口、してもらう!!

建物自体の価値について理解する。

を大切にしたいです。

第2回ワークショップ 場所の特性・大切にしたい考え方

■ワークシート1：連想マップ



E班

第2回ワークショップ 場所の特性・大切にしたい考え方

■ワークシート2：大切にしたい考え方まとめシート

わたしたちE班は

地域と共にあるイメージ、身近な市民活動の場に  
・地域の人が残ってよかったと感じる活用法に。

世界の子どもたちが平和について学ぶ・考えることができる場所にしたい  
・次の世代がいかに興味を持ち、引き継いでいけるか。  
・活用の仕組みを現時点で作りすぎず、10年後、20年後の人たちのための活用となるように。  
・戦争の記憶を発信できる人が減ってしまう中で、重要な存在。内装をあまり変えない活用。

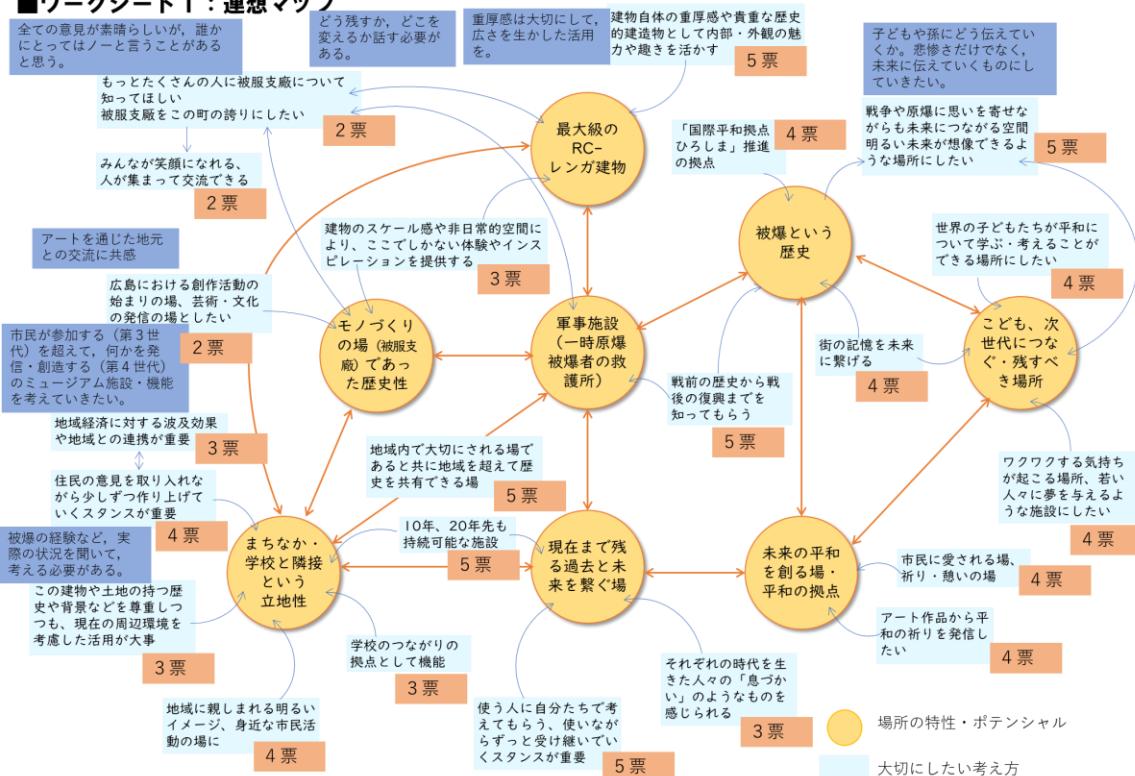
「国際平和拠点ひろしま」推進の拠点  
・平和に関する研究拠点  
・コンセプトには鎮魂と平和への強い誓いを発信する場。

棟ごとに様々な活用

を大切にしたいです。

第2回ワークショップ 場所の特性・大切にしたい考え方

■ワークシート1：連想マップ



F班

第2回ワークショップ 場所の特性・大切にしたい考え方

■ワークシート2：大切にしたい考え方まとめシート

わたしたちF班は

「保存」を重視した場合に、大きさ・広さを重視した利活用を。

「公開」を重視した場合に、被爆者の体験・経験を踏まえた空間、軍都広島の見点（日本全体も含めて）、当時のことが分かる資料館にしたい。

「参加」を重視した場合に、被爆者の方の体験を踏まえて、飲食機能の導入などには配慮が必要であり、消費行動を伴う機能については、十分な調査・検討を行わないといけない。

「創造」を重視した場合に、保存（第1世代）から参加（第3世代）までの全体を含めて検討する必要がある。

を大切にしたいです。

〈重視するキーワード〉

(第1回ワークショップのまとめを踏まえて、重視するキーワードを抽出)



〈大切にしたい考え方〉

(第2回ワークショップで各班5つ程度にまとめた考え方)

A班

- ・こども,次世代につなぐ・残すべき場所
- ・未来の平和を創る場・平和の拠点
- ・モノづくりの場 (被服支廠) であった歴史性

- ・未来を担う子どもや若者が“笑顔”になれる
- ・広島の人と世界がつながる場所  
(私たちはウクライナのために何ができるのか?)
- ・復興の歴史を発信する (平和資料館との差別化)
- ・平和の祈りや広島のものづくりを体験・行動できる
- ・100年後も建物を維持,持続的に運営できるように必要な収益をあげる

B班

- ・世界の子どもたちが平和について学ぶ・考えることができる場所にしたい
- ・戦争や原爆に思いを寄せながらも未来につながる空間,明るい未来が想像できるような場所にしたい
- ・10年,20年先も持続可能な施設

- ・地方の人,観光客 (人と人) をつなぐ場所
- ・世代をこえて話す 体験する 共有する
- ・平和・文化・歴史・アート・音楽の発信拠点

C班

- ・戦争や原爆に思いを寄せながらも未来につながる空間,明るい未来が想像できるような場所にしたい
- ・もっとたくさんの人に被服支廠について知ってほしい,被服支廠をこの町の誇りにしたい
- ・学校のつながりの拠点として機能
- ・広島における創作活動の始まりの場,芸術・文化の発信の場としたい
- ・アート作品から平和の祈りを発信したい
- ・10年,20年先も持続可能な施設
- ・ワクワクする気持ちが起こる場所,若い人々に夢を与えるような施設にしたい

- ・次世代に伝える平和学習の場
- ・国内外に向けて建物と建物が持つストーリーを知ってもらう
- ・近隣地域の方に愛着を持って関わってもらう
- ・建物ごとのターゲットを変え持続可能 (収益性) な活用
- ・差別化等から収益を持続可能にするために得る。
- ・点でなく,面で考える

凡例

※事務局で類型整理

次代継承する,未来につながる  
(原爆の歴史・平和を認識しつつ)

つなぐ (人と人,世界へ)

価値の理解・認知度向上 (発信),  
誇り・愛着としての存在

地域のものとしての  
存在

創造・体験の場 (文化・歴史・  
アート・音楽・モノづくり)

持続性・収益性等: 持続的な運営 (人が来る,必要な  
収益をあげる) / 考えながら作り上げる

概念・俯瞰的: 点でなく面で捉える・棟ごと  
に違った機能/ワクワク感

〈重視するキーワード〉

(第1回ワークショップのまとめを踏まえて、重視するキーワードを抽出)

D班

- ・この建物や土地の持つ歴史や背景などを尊重しつつも、現在の周辺環境を考慮した活用が大事
- ・もっとたくさんの人に被服支廠について知ってほしい、被服支廠をこの町の誇りにしたい
- ・広島における創作活動の始まりの場、芸術・文化の発信の場としたい
- ・使う人に自分たちで考えてもらう、使いながらずっと受け継いでいくスタンスが重要

E班

- ・戦争や原爆に思いを寄せながらも未来につながる空間、明るい未来が想像できるような場所にしたい
- ・この建物や土地の持つ歴史や背景などを尊重しつつも、現在の周辺環境を考慮した活用が大事
- ・市民に愛される場、祈り・憩いの場
- ・戦前の歴史から戦後の復興までを知ってもらう
- ・「国際平和拠点ひろしま」推進の拠点
- ・もっとたくさんの人に被服支廠について知ってほしい、被服支廠をこの町の誇りにしたい
- ・住民の意見を取り入れながら少しずつ作り上げていくスタンスが重要
- ・10年、20年先も持続可能な施設

F班

- ・戦争や原爆に思いを寄せながらも未来につながる空間、明るい未来が想像できるような場所にしたい
- ・建物自体の重厚感や貴重な歴史的建造物として内部・外観の魅力や趣きを活かす
- ・戦前の歴史から戦後の復興までを知ってもらう
- ・地域内で大切にされる場であると共に地域を超えて歴史を共有できる場
- ・使う人に自分たちで考えてもらう、使いながらずっと受け継いでいくスタンスが重要
- ・10年、20年先も持続可能な施設

〈大切にしたい考え方〉

(第2回ワークショップで各班5つ程度にまとめた考え方)

- ・広島における文化を発信する場所にする
- ・被服支廠についてもっと知ってもらう
- ・建物自体の価値について理解する
- ・人が来たくなるような場所にする
- ・使い方を決めず、使い手に考えてもらう

- ・世界の子どもたちが平和について学ぶ・考えることができる場所にしたい
  - ・次の世代がいかに興味を持ち、引き継いでいけるか
  - ・活用の仕組みを現時点で作りすぎず、10年後、20年後の人たちのための活用となるように
  - ・戦争の記憶を発信できる人が減ってしまう中で、重要な存在。内装をあまり変えない利活用
- ・「国際平和拠点ひろしま」推進の拠点
  - ・平和に関する研究拠点
  - ・コンセプトには鎮魂と平和への強い誓いを発信する場
- ・地域と共にあるイメージ、身近な市民活動の場に
  - ・地域の人が残してよかったと感じる活用法に
- ・棟ごとに様々な活用

- ・「保存」を重視した場合に、大きさ・広さを重視した利活用を
- ・「公開」を重視した場合に、被爆者の体験・経験を踏まえた空間、軍都広島の視点（日本全体も含めて）、当時のことが分かる資料館にしたい
- ・「創造」を重視した場合に、保存（第1世代）から参加（第3世代）までの全体を含めて検討する必要がある
- ・「参加」を重視した場合に、被爆者の方の体験を踏まえて、飲食機能の導入などには配慮が必要であり、消費行動を伴う機能については、十分な調査・検討を行わないといけない